

西の手の紙

題字 シニアコンシェルジュ 國分ひろみ

SC レター (第 3 号) 2016 年 8 月発行

□ LGBTってなんだろう？

最近、LGBTという言葉をよくテレビなどで聞く機会が増えてきましたが、「自分には、関係ない」「外国の国の話」と思っている方も多いのではないのでしょうか？LGBTは、Lはレズビアン（女性同性愛者）、Gはゲイ（男性同性愛者）、Bはバイセクシャル（両性愛者）、Tはトランスジェンダー（性別越境者）の頭文字を取った、性的少数者を表す総称です。（それ以外の性的少数者もいます）ここ数年、日本でもメディアなどで使われはじめました。

2015年の電通総研の調査では、日本では7.6%、約1000万人の当事者がいるというデータも出ています。これは、13人に1人です。日本の苗字で多い「佐藤」「田中」「鈴木」「高橋」さんは、合計600万人いると言われていますが、LGBTの人口も同等の規模だということです。みなさんのお知り合いに4つの苗字の誰かがいるとすると、同じくらいの確率でLGBTの家族、友人、知人、お客様がいるかもしれません。IBMや野村證券、ソニー株式会社などの企業もLGBTへの支援を宣言しています。

かくいう、私もLGBTの中では、Tのトランスジェンダーで33歳の時に、性別適合手術を受けて、戸籍上も女性から男性になりました。大阪府枚方市で3人兄弟の長女として生まれ物心ついたときから、好きになるのは女の子。3歳の時には立ちションをして失敗し、お気に入りのおもちゃは、キン消し（キン肉マンのゴム人形）で戦いごっこ。外遊びが大好きで兄や男の子と秘密基地作って日が落ちるまで夢中になって遊んでいました。中学・高校と大きくなるにつれて、男性を好きになれない自分を責め、女性として働くことが想像できず将来を悲観して毎日泣いてばかりいました。

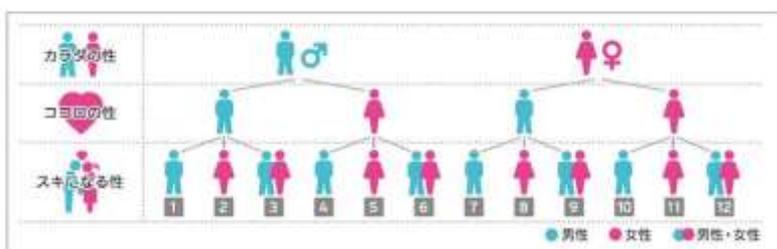
そんな私が男性として生きていく覚悟を決めた時に、ある方と出会いました。名前を直美から直に変更し、男性にも女性にも丸をつけることができず、しかも女子高・女子短大出身の私の履歴書を見て、優しくこう言ってくださいました。「男性の気持ちも女性の気持ちも理解できるのは、素晴らしいことだね。今まで、辛い思いをしてきた分、人の痛みもわかる。その経験を活かしてほしい。」思いがけない言葉に、感動して胸が熱くなりました。

「わたしにしかない経験をしてきたからこそできることがあるのではないだろうか？もっと、私たちの存在をたくさんの方に知って欲しい」そんな思いで2016年7月より理事の杉山さんからの声がけもいただき、シニアコンシェルジュ協会に参加させていただきました。

「身近な人にこそ、なかなかご自身のことを伝えられない。」一人で悩みを抱え込んで心身ともに疲れて孤独を感じている当事者はまだまだ、たくさんいます。

「LGBTの方々にも希望を持って、ご自身の未来を考えて欲しい」そう、心から思っています。日頃の不安などについても、一人で悩まずになんでもお気軽にご連絡いただければと思います。また、非当事者の方にもLGBTの知識を知っていただけると嬉しいです。少しでもLGBTの方々への不安や悩みを解決して、お役に立てるように奮闘していきますので、よろしく願いいたします。

図：電通ダイバーシティ・ラボ制作の「セクシュアリティマップ」



出典：電通ダイバーシティ・ラボ「LGBT調査2015」

**藤原直**
Fujiwara Nao
シニア
コンシェルジュ
ファイナンシャルプランナー
LGBT 活動家
女性として生まれ、現在は性別適合手術を受け、男性として生活をしているトランスジェンダー（性同一性障害）、LGBTの当事者。「すべての人が生き生きと自分らしく豊かに生きる世界」を目指して多方面で活動中。保育士、ニュージーランドでホテル業、帰国後は国土交通省での勤務を経て、現在は総合保険代理店勤務。2015年8月日経ビジネスLGBT特集で掲載。

□ ダイバーシティを考える協会でありたい

近年、ニュースなどで「LGBT^{注1}」、「性的マイノリティ^{注2}」という言葉を目にすることが増えています。今まで不可視的存在であった彼/彼女らが、自らの人生を自分らしく全うしたいとの思いで当事者運動が盛り上がり、また同性婚を認める諸外国の動きも追い風となり、日本における「LGBT」、「性的マイノリティ」並びに、彼/彼女らの直面する社会的障壁が可視化されつつあります。

しかしながら「LGBT」、「性的マイノリティ」への理解の促進や偏見の払拭は遅々としています。非当事者が自ら学ぼうとしないこと、対岸の火事としか考えられないことも一因でしょう。

先日、当事者が開催するシニアライフに関する学習会に専門家として参加させて頂きましたが、その中で、「LGBT」、「性的マイノリティ」特有の、お金を始めとするライフプランニングの困難性、地域からの孤立、原家族との関わり、介護の問題、医療現場での同性パートナーの法的扱い、自衛のための法的サービス利用の可否、葬儀・供養の不安など様々な質問を頂きました。

SCの掲げる協会の目的である「地域とシニア」、「ゆたかなシニアライフ」、「安心してエンディングを迎えられる」ことは、「LGBT」、「性的マイノリティ」の方がたにも享受して頂きたいことです。SCが、「LGBT」、「性的マイノリティ」のQOL向上に貢献できることは大きく、喫緊の課題ですので、積極的に学び、当事者の参画も促進し、課題解決のため共々に取り組んで参りたいと考えております。



寺尾 俊一
Terao Syunichi

シニア
コンシェルジュ

シニアコンシェルジュ協会理事
オフィスシオン代表取締役

「すべては安心をお届けする為に」をテーマに、30年で5千件以上のご葬儀をサポートして参りました。皆様の心に寄り添い、シニアライフのご計画をサポートいたします。著書に「老いじたく練習帖」、「漫画で丸わかり！はじめてのお葬式」（監修）、メディア出演も多数。

□ メンバー一人一人に何ができるか考えてもらう

『LGBTとライフプラン』、これまで結び付けたことのなかった言葉を結びつける機会に遭遇した。LGBTのことは全く知らなかった。私が気にかかったのは、女性同士のカップルの場合である。一般的に考えられている男女の夫婦の場合と女性同士のカップルの場合に差異があるのではないかとということである。

計算してみると、やはり女性同士のカップルの場合、双方長生きすることが考えられるため、より多くの老後資金が必要となる。

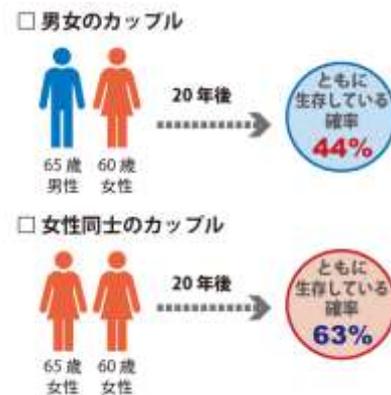
65歳と60歳のカップルを考えてみよう。男女のカップルの場合、20年後にともに生存している可能性は44%。半分以下になっている。同じ年齢のカップルであっても、双方女性であると、ともに生存している可能性は63%。当事者がこのことを認識していたとして、どこかで相談できるのだろうか？

そして、公的年金でも不利益が考えられる。実質婚とみなされないのであれば、遺族年金を受け取ることができないからである。

さらに、相続の場合でも問題が発生する。相続人としての地位がなければ、遺留分などは主張できない。配偶者や子であれば受けられる相続税法上のメリットも受けられないかもしれない。考えてみると、LGBTのみなさまにこそ、シニアライフプランを考えてもらい、相続を考えてもらい、そして、葬儀を考えてもらうことが必要なのではないかと思えてきた。

そこで、私から、シニアコンシェルジュ協会のメンバーに、『何か協会としてできないだろうか？』という問いかけをさせてもらった。シニアコンシェルジュ協会には、法律の専門家や税務の専門家、あるいは、年金やお金の専門家、さらに、葬儀の専門家といった多士済々のメンバーがそろっている。私一人では何もできないかもしれないが、協会として対応するのであればできそうな気がしたからである。

現在、シニアコンシェルジュ協会では、メンバー一人一人に、LGBTについての基礎的な知識を身につけ、専門家として何が提供できるか思索してもらっている。年内には、協会として何か形にできるものを提供したいと考えている。



杉山 明
Sugiyama Akira

シニア
コンシェルジュ

シニアコンシェルジュ協会理事
パームスコポーレーション代表

生命保険会社と運用委託会社で金融商品を開発した経験をもとにした金融商品のアドバイスに定評。近年は、大学等における金融知力教育やシニア向け教育に注力。「老後破産しないお金の本」ほか著書多数

シニアライフ コラム

<シニアお気軽講話会 活動報告>

8月9日(火) 10時から「家系図の作り方」セミナーを開催しました。NHKの「ファミリーヒストリー」という番組を面白いという人がまわりたくさんいたので、このテーマを選びました。

行政書士は本来の業務として相続関係があり、その際に家族関係を明らかにするために戸籍収集をすることができます。これは相続人を調べることが目的なのですが、今回はそれとは少し趣旨が違います。

みなさんは、戸籍のある国はどこかご存じですか？ 日本、韓国、台湾の3か国です。世界では戸籍のない国のほうが多いのです。

今、日本の戸籍がだんだん消えていくことをご存じでしょうか？ 戸籍の保存期間は、以前は80年でした。平成22年に保存期間が150年になりました。ですから、本当に古い戸籍は破棄されているものや消失したものがあります。

ですから、自分のルーツを知るためには、早めに先祖の戸籍を集めることが大切です。自分のルーツを知ることで、自分の役割や家族の絆を見直すことができます。



(シニアコンシェルジュ FP 行政書士 鹿内節子)

シニアライフ コラム

何かを始めるのに、年齢なんて関係ない。

私が役者の活動を始めたのが、47歳の時。最初はドラマやCM、映画のエキストラとしての出演でした。もちろん台詞などはありませんが、画面にしっかり映るシーンもありました。

ある日、映像演技のワークショップで一緒に参加した役者仲間から、小劇場の舞台出演の打診があった。私がSNSで呟いた「舞台にも立ってみたい」を閲覧しての事だったらしい。その誘いに乗ってオーディションに参加し、出演する事が決まった。それは、ミュージカルタッチの芝居で、演技だけではなく、ダンスや歌もあった。しかし、私はこれまで演技を学んだ事がない。ましてやダンスなどディスコですら数回した行った事がない。悪戦苦闘の日々が続いた。そんな姿を見ていたのかどうか解らないけれど、まだ舞台デビューすらしていない私に、次の舞台の打診が来た。ある役のキャストを探していた所、私が適任と映ったらしい。もちろん舞台経験のない事も、わかっての事だった。結局この年の夏は、3本の舞台に出演した。

翌年から、定期的に舞台に出演するようになり、朗読劇を含めてこれまで20本以上の芝居をしてきた。演技だけに飽き足らず、自ら劇団を立ち上げ、脚本や演出、企画もするようになった。すっかり役者の虜になった。

芝居をやるのに、専門学校などで学ばなくて大丈夫なのか。私の場合、演技の方法や、所作などを事細かに指導してくれる演出家や共演者に恵まれた。稽古場以外での練習にも付き合ってくれる若手の仲間もいた。多分、かなり年上の人に指導する事は、嫌だったのではないと思う。ただ、私に年齢差を感じないらしく、「人の話に素直に耳を傾け、結果を出そうと努力し、その苦勞を楽しんでいる人間を排除する理由はない」とある演出家から言われた。私が芝居を続けられる理由は、こういう姿勢の私を評価や期待をしてくれる人々に恵まれた事にある。

何かを始めるのに、年齢は関係ない。肝心なのは始める勇氣と、続ける根気を持つことであると私は思う。

(シニアコンシェルジュ 松山智彦)

今後の予定

シニアお気軽講話会 IN しながわ

「成年後見制度と家族信託」

2016年9月5日(月) 10:00~11:00

会場: きゅりあん 第4講習室

講師: 一般社団法人 しんきん成年後見サポート理事長
城南信用金庫 相談役(前理事長) 吉原毅

「大人のおかたづけ〜量から質への財産整理〜」

2016年10月4日(火) 10:00~11:00

会場: きゅりあん 第3グループ室

講師: CFP ITコンサルタント 役者 松山智彦

「シニアの活躍で活性化する品川! (仮)」

2016年11月12日(土) 10:00~11:00

会場: きゅりあん 第1グループ室

講師: 品川区議 西本貴子

「終わりをすることで生き活きと暮らす」

2016年12月3日(土) 10:00~11:00

会場: きゅりあん 第3グループ室

講師: シニアコンシェルジュ協会理事
寺尾俊一

品川ネット

「シニアコンシェルジュとはなにをするの?」

2016年9月14日(水) 14:00~15:30

会場: いきいきラボ関ヶ原

講師: シニアコンシェルジュ協会理事
CFP 証券アナリスト 杉山明

健康・いきがいフェスタ 2016

2016年12月10日(土)

会場: きゅりあん 11:00~20:00

今年も、シニアコンシェルジュ協会(SC)は参加します。



シニアコンシェルジュ憲章

わたしたち、シニアコンシェルジュは

- ・相談者であるシニアの利益を常に最優先します
- ・知識と実務の探求に精進し、専門能力の向上に努めます
- ・組織として専門的なアドバイスを提案できるネットワーク構築を目指します
- ・シニアコンシェルジュの社会的信用の向上に努めます

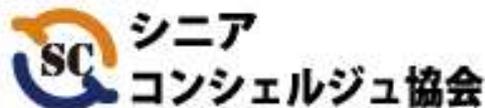
シニアコンシェルジュ無料相談窓口

フリーダイヤル
0120-365-624

お気軽に
お電話ください!!

シニア
コンシェルジュ協会

一般社団法人



<http://www.428c.org>

<https://www.facebook.com/428corg/>

info@428c.org

シニアコンシェルジュ
認定講習 申込受付中!!